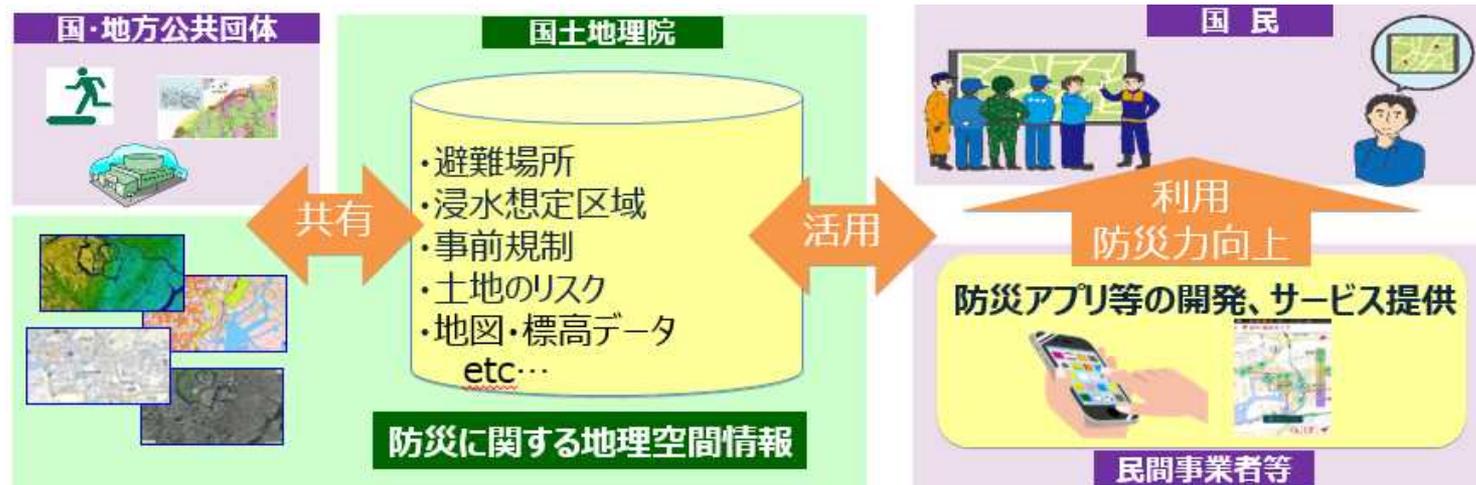


平成30年度 防災アプリケーション公募

募集要項

1. 取組の趣旨

- 国土地理院では、数多くの地理空間情報を整備・保有しており、近年、これらデータのオープンデータ化を積極的に推進し、多くの方に活用いただくことを目指しています。
- 本取組は、とくに防災に関連する地理空間情報の利用促進を図るため、国土交通省や内閣府（防災担当）による協力を得て実施しているものであり、“アプリケーション開発”というプロセスを通じて、これらデータを多くの皆様に活用いただくとともに、より利用しやすいデータ提供方法を検討することを目的に、平成26年から毎年実施しています。
- 5年目を迎える本年は、当院が国土交通省と共同運営している「国土交通省ハザードマップポータルサイト」から提供を開始した洪水浸水想定区域データ等の災害リスク情報を効果的に活用し、平時からの災害対策や防災学習などを通じて、国民の防災意識の向上に貢献する防災アプリを広く募集します。
- なお、本年7月に発生した西日本豪雨では、事前に災害の危険性が高いことが知られていた地域において多くの被害が発生し、災害リスク情報やハザードマップの重要性があらためて認識されたところです。
- 近年の災害において皆様が感じた課題などについても踏まえていただき、従来のハザードマップの概念にとらわれることなく、皆様の創意工夫をこらした自由な発想により、**住民に対して地域の災害リスクをわかりやすく伝えることができるようなアプリをお寄せいただきますようお願いいたします。**
- なお、応募にあたっては、本募集要項を十分ご確認の上、手続き等をお願いします。



2. 応募条件

- 本年の取組では、「国土交通省ハザードマップポータルサイト」から公開している洪水浸水想定区域データや土砂災害警戒区域データなどを効果的に活用した防災アプリを広く公募します。
- なお、これらデータは著作者からの許可が取れしだい順次オープンデータとして公開する予定としており、どなたでも自由に無償でご利用いただけます。

■ 国土交通省ハザードマップポータルサイト トップページ <https://disaportal.gsi.go.jp/>

■ 重ねるハザードマップ オープンデータの使い方

以下にアクセスし、表示したいデータを選択し、URL欄をコピーして、アプリケーションに利用することができます。

<https://disaportal.gsi.go.jp/hazardmap/copyright/opendata.html>

災害種別	データ名称	データの概要	データ形式	データ公開範囲※1
洪水	洪水浸水想定区域 (想定最大規模)	その地域において想定されている最大規模の降雨により浸水する範囲	タイルデータ (PING形式)	国管理河川445河川
土砂災害	土砂災害警戒区域	土砂災害が発生した場合、住民の生命または身体に危害が生ずるおそれがあると認められる区域で、警戒避難体制を特に整備すべき区域		埼玉県、大阪府、兵庫県、島根県を除く全ての都道府県

※平成30年9月末時点。

※ 上記データなど災害リスク情報を使用することが応募要件となりますので、アプリを応募される際には、使用したデータが明確にわかるよう応募様式1に記載してください。

【原データ出典の明示について】

- ・上記2つの災害リスク情報のデータは、出典を記載いただくことでご利用いただけます。
- ・出典の記載方法は、「ハザードマップポータルサイト」として、上記の「オープンデータの使い方」のページへのリンクをつけてください。

その他ご利用いただける地理空間情報

国土地理院では「地理院タイル※」というタイル形式のデータをオープンデータとして一般にご提供しております。平成30年9月時点でオープンデータとして公開しているデータは以下のとおりですので、こちらにつきましても自由にご活用ください。

なお、これら以外の国の機関や地方公共団体等が提供しているオープンデータにつきましても、必要に応じてご利用いただき、創意工夫をこらしたアプリの開発をお願いいたします。

- ※ 地理院タイルを利用するには、「国土地理院コンテンツ利用規約」が適用されます。詳細については「地理院タイルのご利用について」(<http://maps.gsi.go.jp/help/use.html>) をご確認ください。
- なお、国土地理院が提供しているタイルデータの詳細については、以下のページをご覧ください。
- 地理院タイル一覧：<http://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>
- ベクトルタイル一覧：<https://github.com/gsi-cyberjapan/vector-tile-experiment>
- 地理院タイルの仕様：<http://maps.gsi.go.jp/development/siyou.html>

データ名称	データの概要	データ形式
標準地図※ ¹	標準的な地図データ	png
淡色地図※ ¹	他の情報と重ね合わせをした場合にも見やすくなるように(3)を淡色化した地図データ	png
写真	国土地理院から提供している背景画像用のオルソ化された空中写真画像	jpg
標高タイル	10mメッシュ標高データ等から整備した標高に関するデータ	txt
色別標高図	標高の変化を陰影と段彩の効果を用いて視覚的に表現したデータ	
活断層図	地震時に大きな被害が予想される都市域とその周辺について、活断層の位置を詳細に表示したデータ	png
治水地形分類図	河川流域のうち、扇状地、自然堤防などの詳細な地形分類及び河川工作物等を示したデータ	
各種中心線データ	道路や鉄道、河川の中心位置を示したベクトル形式のデータ	
注記	地図に表示される居住地名や標高値などを示したベクトル形式のデータ	
基盤地図情報	基準点や道路縁など電子地図上の位置の基準となる地物を示したベクトル形式のデータ	geojson
地形分類	地形を形態、成り立ち、性質などから分類したベクトル形式のデータ	
指定緊急避難場所※ ²	指定緊急避難場所の位置や対応する災害種別を示したベクトル形式のデータ	

※¹ これらデータは基本測量成果ですので、データをダウンロードしてご利用いただく際には、測量法に基づく申請が必要な場合があります。詳細は「国土地理院の地図の利用手続」をご参照ください。

※² 本データを利用するには、「免責事項・ご利用上の注意 (<http://www.gsi.go.jp/bousaichiri/hinanbasho-menseki.html>)」に基づき利用することとし、とくにデータの更新にあわせて最新の情報を利用するようにしてください。

3. 応募方法及び提出締切

アプリをご応募される方は、開発した防災アプリを以下の提出〆切までに防災アプリ事務局あてに（メール又は郵送で）ご提出ください。

防災アプリの提出に際しては、審査等を行う上で必要となる防災アプリの説明資料やインストール手順書等、関係資料もあわせて提出するものとします。

詳細については、防災アプリ事務局より、応募者に対して改めてご連絡いたします。

（1）提出締切

①応募様式（別紙1）

②アプリケーション本体（プログラムファイル） **平成30年 11月30日（金）** ※厳守

（2）提出資料 ※いずれの資料も記載は日本語に限ります。

① 応募様式（別紙1）

② アプリケーション本体（プログラムファイル）

- ・説明資料（様式自由） ※アプリのコンセプトや操作方法（非公開アプリはインストール方法も含む）を記載のこと。
- ・アンケート様式（別紙2）

（3）提出先：国土地理院防災アプリ事務局 **※メール送付又は郵送にて提出**

- ・ 電話番号：029-864-6922 or 6932（直通）
- ・ 電子メール：gsi-bousai-app@ml.mlit.go.jp と bousai-app@aeroasahi.co.jp
- ・ 郵送等：〒305-0811 茨城県つくば市北郷1番

国土地理院 応用地理部 地理情報処理課

4. 審査スケジュール

本年度の取組は、以下のスケジュールで実施する予定です。
詳細な日程が確定した際には、防災アプリ事務局から応募者に対して改めてご連絡いたします。

① アプリ応募受付期間

平成30年 **10月3日(水)**

～ 平成30年 **11月30日(金)** アプリ作品提出

② 一次審査（審査委員による応募書類を用いた審査）

平成30年 **12月中旬**

③ 審査委員会（一次審査を通過したアプリ開発者による*¹プレゼンテーション審査）

平成30年 **12月27日(木)**（開催場所詳細未定*²**東京駅近郊**）

※1) 審査会場にてプレゼンが困難な場合は、代替のPR動画を御準備ください。

※2) 詳細は一次審査を通過されたアプリ開発者の方に別途お知らせいたします。

④ 表彰

審査委員会にて審査終了後、すぐ表彰式を行います。

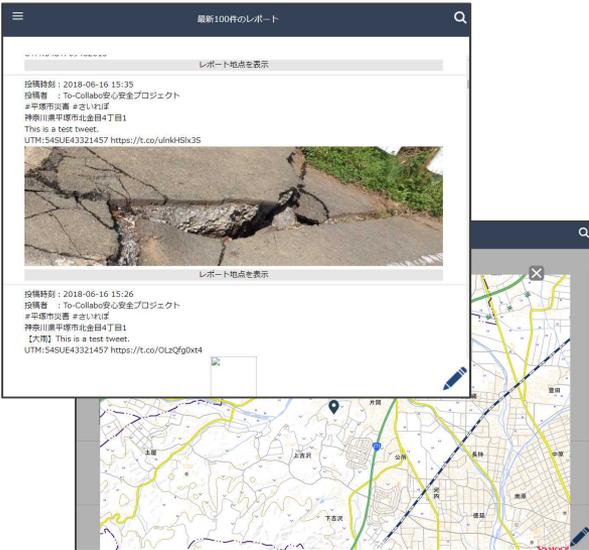
(1) 審査観点・基準

ご応募いただいたアプリは、以下に示す防災に重要な3つの観点から審査します。

なお、**過年度に応募実績のあるアプリについては、前回応募時から新たに追加された機能やデータに限って評価**することとします。

① 災害リスクコミュニケーションの向上

近年の災害における教訓を踏まえた上で、各種メディアやSNSを効果的に活用し、住民等に災害の危険や被害状況などを適時的確に周知できることが期待されるアプリ



例: さいレポ(東海大)

Twitterを活用して災害時における被害状況を(位置情報付きで)周知するアプリであり、災害時におけるリスク周知に有用であることから、H29防災アプリ賞を受賞

② 自助・共助の促進

災害や防災対策に関する基礎知識の向上が期待され、もって災害時における先進的な自助・共助の取組が促進されることが期待されるアプリ



例: SHS災害.info(佐土原高校)

機能がシンプルかつ使いやすいことに加え、所持品チェックリストなど地域住民の自助・共助を促進する効果が期待され、H29防災アプリ大賞を受賞

③ 災害リスクのわかりやすさ

ベクトルタイルという汎用性の高いデータの優位性を活かし、高度な表現技術を用いることで、ユーザーによる直感的な災害リスクの理解が期待されるアプリ



例: ARハザードスコープ(CADセンター)

洪水や津波の浸水の様子を拡張現実AR技術を活用してわかりやすく表現しており、H26防災アプリ大賞を受賞

具体的な審査基準には、以下の基本項目も含まれます。

- ・ **操作性**：初めて使用する方や高齢者の方でも容易に操作できるアプリ
- ・ **正確性**：使用するデータが十分信頼でき、ユーザーの誤解を招くおそれがないアプリ
- ・ **デザイン性**：デザインが優れているアプリ

(2) 審査委員

- 目黒 公郎 (東京大学 生産技術研究所 教授)
 - 鈴木 康弘 (名古屋大学 減災連携研究センター 教授)
 - 瀬戸 寿一 (東京大学 空間情報科学研究センター 特任講師)
 - 沼田 宗純 (東京大学 都市基盤安全工学国際研究センター 講師)
- ※ほか国・地方公共団体の防災担当課長

(3) 表彰

審査観点・審査基準をもとに、優れた5作品程度を選定・表彰します。

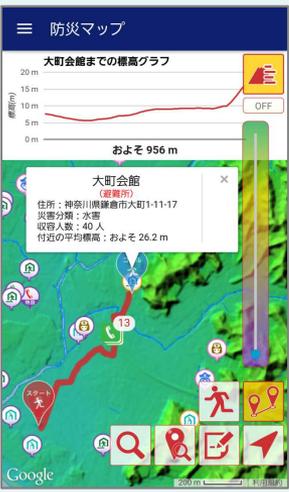
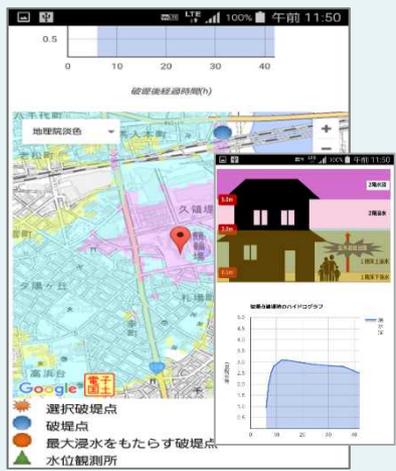


平成29年度 防災アプリ審査委員会の様子



平成29年度 審査委員長と受賞者のみなさま

(参考) これまでの防災アプリ受賞作品

年度	H27 (リスクコミュニケーション部門)	H27 (避難誘導部門)	H28 (大賞)	H29 (大賞)
名称	ARハザードスコープ	goo防災アプリ	ハザードチェッカー	SHS災害.info
開発者	株式会社 キャドセンター	NTTレゾナント株式会社	兵庫県立大学応用情報科学研究科 有馬昌宏研究室	宮崎県立佐土原高校 情報技術部
画面				
概要	各種防災地理情報を地図表現するだけでなく、カメラを通した実写へハザード情報をAR（拡張現実）表現することができるアプリ。 防災情報を体感することで、事前学習的に防災意識の向上を支援する。	気象・災害発生等のPUSH通知機能や各種防災コンテンツ等を含んだ総合防災ポータルアプリ。 全国の防災マップや安否確認機能など多くの機能を搭載している。	現在地や指定した地点における気象防災情報や災害リスクの有無を、多言語対応のテキスト・色等で分かりやすく知らせてくれるアプリ。	宮崎市民を対象に、災害に対する心構えを持つこと、災害発生時の安全確保、救助活動を補助することを目的とし、「助けられる側から助ける側へ」をコンセプトに開発したアプリ。
入手方法			http://urx3.nu/zk2F 	GooglePlayストア "SHS災害"で検索 

6. 留意事項

本取組の対象とする防災アプリは、以下の「①防災アプリ要件等」及び「②応募資格」をいずれも満たしていることとします。

① 防災アプリ要件等

1. 応募するアプリはタブレット端末、スマートフォンのいずれかで動作するものとします。
2. 応募するアプリは、Webアプリ、Android アプリ、iOS アプリのいずれかとし、それぞれの動作環境は以下とします。
 - Webアプリは、Chrome（Android版）又はSafari（iOS版）で動作する。
 - Androidアプリは、Android4.4以上が搭載されたタブレット端末又はスマートフォンで動作する。
 - iOSアプリは、iOS10以上が搭載されたiPad又はiPhoneで動作する。
3. 応募するアプリは、国土地理院や国土交通省が提供している防災に関する地理空間情報のうち、アプリ開発時点においてオープンデータとなっている情報を使用することとし、開発者が創意工夫したアプリとします。具体的には、浸水想定区域データなど防災意識の向上や災害時における住民等の円滑かつ迅速な避難を確保するための防災に関する地理空間情報を利用した防災アプリを開発することとします。
4. 応募するアプリが有料又は無料であるかは問いませんが、本取組における審査や、主催者によるイベント等の実施の際には、応募するアプリを無料で利用できるものとします。また、開発いただいた優良なアプリについては、広く国民にご利用いただくことが望ましいため、**原則として公開させていただきます。**
5. 応募するアプリで使用する言語は、初期設定の状態では日本語とします。
6. 悪意のあるアプリや公序良俗に反するアプリは対象外とします。

② 応募資格

1. 個人、グループ、法人を問わず応募できます。
2. **同一主体からの応募作品は1作品までとします。**
3. 中学生以下の方が応募する場合は、保護者又は監督者（学校の先生等）の許可を得るものとします。
4. **過去に他のコンテストに応募した作品でも構いません。（過年度の本取組にご応募いただいた作品についても、作品を更新して再度ご応募いただくことも可能です。）**
5. 暴力団等の反社会的勢力、又は資金提供その他を通じて反社会的勢力の維持、運営、経営に協力又は関与するなど、反社会的勢力との何らかの交流、関与を行っている場合と主催者が判断する場合は、応募できないものとします。

7. 知的財産権及び個人情報等の取扱い等

(1) 知的財産権等について

本取組における著作権等の知的財産権についての扱いは、以下によるものとします。

1. 応募する防災アプリの著作権等の知的財産権は、応募者に帰属するものとします。
2. 応募者は、応募する防災アプリが応募者の独創によるものであり、応募者がそのアプリの単独かつ独占的な所有者であり権利者であることを保証するものとします。または、応募者が、独占的な所有者又は権利者でない場合（例えば、複数人で防災アプリ開発を行いそのうちの一人が応募した場合、所属会社で権利を保持しているが個人で応募した場合等）には、応募者は、その他の所有者又は権利者を代表して、そのアプリに関して応募する権利及び本募集要領に定める事項を了承する権利を保有していることを保証するものとします。
3. 応募者は、著作権法等関係法令を遵守しているとともに、応募する防災アプリの知的財産権を有しているものとします。万一、著作権等の知的財産権等に関わる問題が発生した場合は、応募者の責任及び費用負担で解決するものとします。また、主催者又は第三者が当該防災アプリを利用したことにより、ウィルス感染や情報漏洩などセキュリティ対策等の不備などで損害を被った場合は、応募者が損害賠償責任を負うものとします。なお、本項に関しては、証明のための確認書を、防災アプリの提出に併せて防災アプリ事務局に提出するものとします。
4. 国土地理院が、本取組の状況や本取組に応募した防災アプリの名称、概要、画面例（動画を含む）、応募者名、写真等を、ウェブサイトや報告書等への掲載・公開等の様々な方法により、国内外で紹介することを、応募者は許諾するものとします。

(2) 個人情報等の取扱い

本取組において、応募者から提出された資料等に含まれる個人情報、技術情報等については、防災アプリ事務局において適切な方法にて管理し、本取組の目的にのみ利用するものとし、法令に基づく場合を除き、本人の了解なしに第三者には一切提供しないものとします。

(3) その他応募者に求める事項

1. 応募者は、本募集要項の内容を理解し、これを遵守するものとします。
2. 防災アプリの開発や各種資料の作成、審査委員会におけるプレゼンテーションの実施等、本取組の実施のために応募者が必要となる経費等については、応募者自らが負担するものとします。
3. 国土地理院では、本取組の支援を外部委託しており、応募者に対する本取組に関する連絡、依頼等について、委託業者を通して行うことがあることを、応募者はあらかじめ了承するものとします。

本募集要項に関するお問合せ、応募様式及び防災アプリの提出は、下記までお願いします。

国土地理院 防災アプリ事務局

- 電話番号：029-864-6922 or 6932（直通）
- 電子メール：gsi-bousai-app@ml.mlit.go.jp（国土地理院）
bousai-app@aeroasahi.co.jp（委託事業者）
- 郵送等：〒305-0811 茨城県つくば市北郷1番
国土地理院 応用地理部 地理情報処理課

（参考）国土地理院防災アプリ専用ウェブサイト：

<http://www.gsi.go.jp/kikaku/bousai-app.html>